

# アスファルトの補修方法

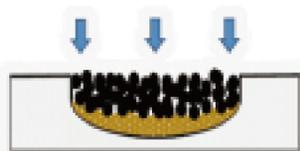
駐車場や道路に使用されるアスファルト、突然できた穴にお困りではありませんか？意外と簡単に補修ができます。これを機会に、アスファルトの補修方法を覚えておくといざという時に、役に立ちます！

- 用意するもの  
 全天候型アスファルト補修材マジカルパッチ 20kg ホーキ スコップ(※転圧器具) 水(※ジョーロ)



## 1 補修箇所を掃除します

補修箇所に砂や泥があると接着性がわるくなります。できるだけ取り除いてください。



### 注意

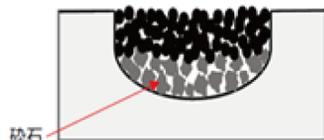
砂や泥がクッション材の役割となり転圧した力が材料につたわらなくなります。

## 2 補修箇所の下地を整える

下地が砂状で弱い場合や施工深さが深い場合は下地を強固にして下さい。

### ポイント

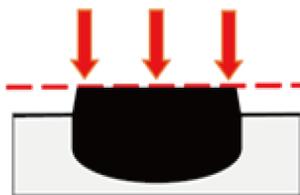
施工箇所の深さが5cmを超える場合は10~15mmの砕石などを敷き詰めることをおすすめします。



※細かい珪砂などはNG。

## 3 充填・敷き均しは均一に！

材料がきちんと充填されていることが重要です。充填と敷き均しが後の転圧作業を簡単にします。



### ポイント

- ①材料は隙間なく。表面が凸凹しないよう平らに仕上げます。
- ②転圧した際に材料が少し沈むため施工面よりも高く盛り付けます。

## 4 表面を湿らすように散水！



### ポイント

- ①転圧前に散水。表面を湿らすように散水すること。
- ②かけすぎると不具合の原因。材料全体が濡ればOK。

※散水はあくまでも表面のべたつきを抑え締固め効率を改善します。散水でセメントのように反応して硬くはなりません。

## 5 しっかり転圧・締固めをしよう！

転圧・締固めが最も重要。充填・敷き均し・散水がうまくいってればOK！転圧されることで硬く強固に仕上がります。

転圧方法は2パターン。機械的に転圧・自然作業による転圧。

### 機械的に転圧



・プレートやダンパで転圧

### 自然作業で転圧



・車を通行させて転圧

### 機械的に転圧

補修した箇所の周囲から締固めを行います。周囲の締固めが十分にできたら中央部分を転圧し、締固めていきます。車を通行させて締固めます。施工面を全体を通行させてください。車の通行が難しい場合は根気よく押し潰すよう転圧していきます。

### 自然転圧

### 重要ポイント

- ①転圧・締固めをすればするだけ硬く・耐久性が上がります。
- ②通行車両等で継続的に転圧されることでより強固になります。

※必ず転圧を行って下さい。また、施工後に継続的に転圧が加わらないと硬化不良になる恐れがあります。



## 6 穴埋め以外での施工ポイント

《わだち掘れなどの舗装面のへこみの場合》  
 基本作業は穴埋め補修と同様です。ただし、以下の3つの点に注意してください。

- ①薄い施工は非常に難易度が高い。
- ②薄いからと言って材料を薄く敷均し転圧しても硬くなりません。
- ③ポットホールは補修同様に多く盛り付けて補修しましょう。

### ポイント①



思い切った盛り付けが必要。薄く敷均しすぎると転圧できません。特に端部がポロポロになって剥がれます。

### ポイント②



わだち掘れの場合は端部を集中的に締固めてください。端部の締固め後、中心に向かって締固めをし、最後にもう一度端部を締固めてください。

### 施工完了です。

施工完了後も通行車両などで繰り返し踏まれ続けることで硬さが増していきます。ただし、タイヤの急な切り返しに対する耐久度は低いので注意してください。

本製品はあくまでも一時補修を目的としており、条件によっては再補修が必要になります。実際のアスファルト舗装(道路)のような強度はありませんのでご注意ください。

## Howto.なび

動画でもっとわかりやすく！暮らしに関するHowto情報を動画で配信中。



## How To 情報

コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいや暮らしに役立つノウハウが満載です。

